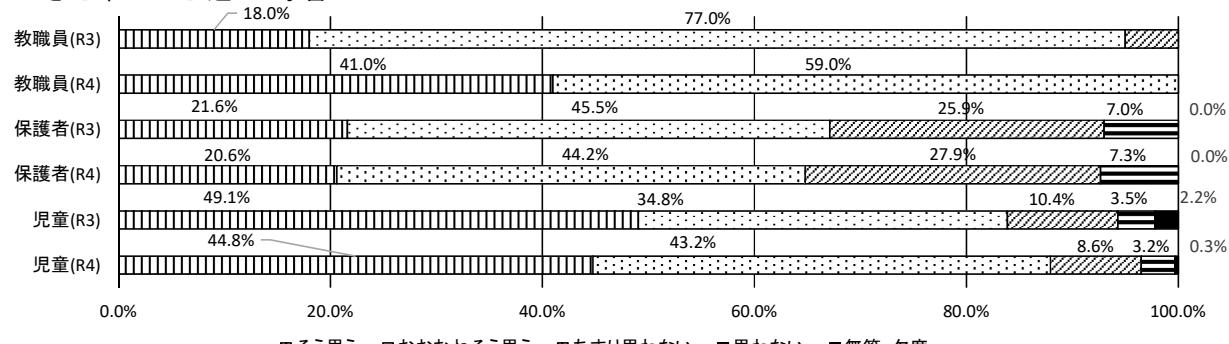


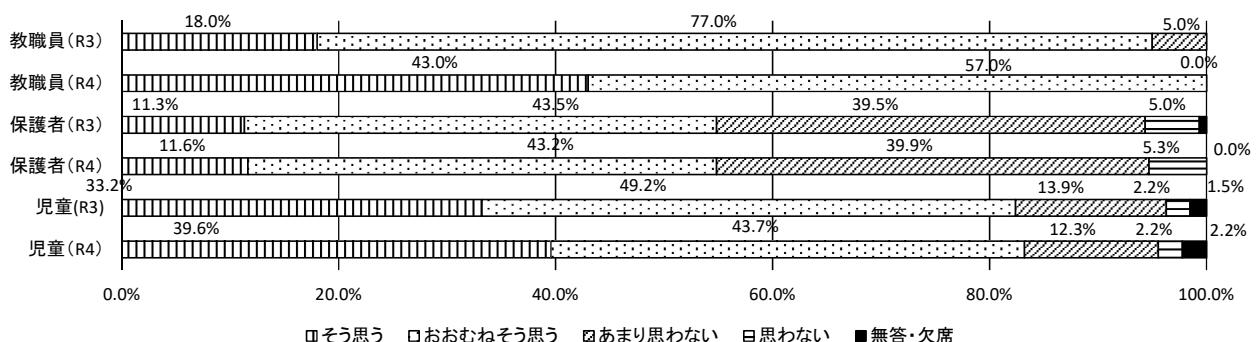
## 令和4年度 学校評価の結果（まとめと考察）

### 1 「考える子」～確かな学力を育む教育の充実

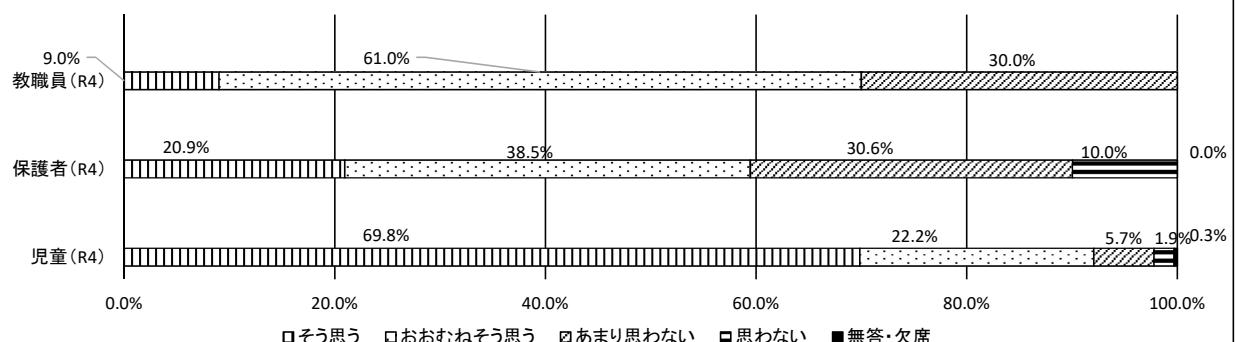
#### 1 できた・わかった・進んで学習



#### ★2 主体的な態度



#### 3 タブレット等ICTの活用



#### 【◇結果 ◎考察】

<1について>

◇学習に対する達成感や満足感については、教職員では肯定的な回答が多く見られた。保護者では、家庭学習に進んで取り組んでいるという肯定的な回答は約65%だった。児童では昨年を上回り、肯定的な回答が88%を越えているが、否定的な回答も10%程度見られた。  
◎教職員は、興味関心を高め、内発的動機付けができるように工夫して指導している。今後も達成感の得られる授業や意欲の高まる家庭学習の出し方等を工夫していきたい。

<★2について（★都賀ブロック小中一貫教育の重点目標）>

◇学習等への児童の主体的な態度について、教職員では以前よりも主体的に取り組めるようになったという回答であった。保護者では、昨年同様、児童がめあてをもって行動しているという肯定的な回答は約半数だった。児童では友だちの意見を聞いたり自分の考えを表したりしているという肯定的な回答が、84%だった。

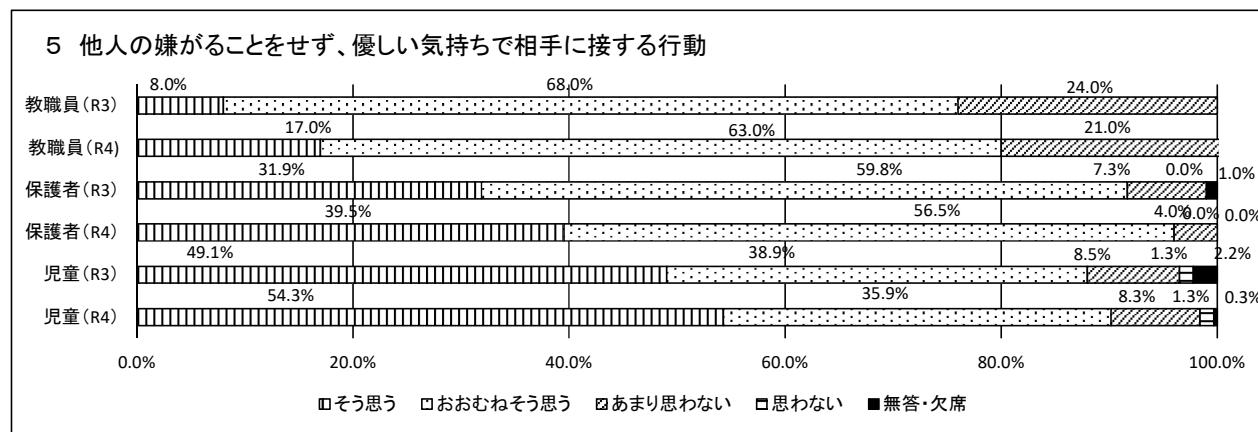
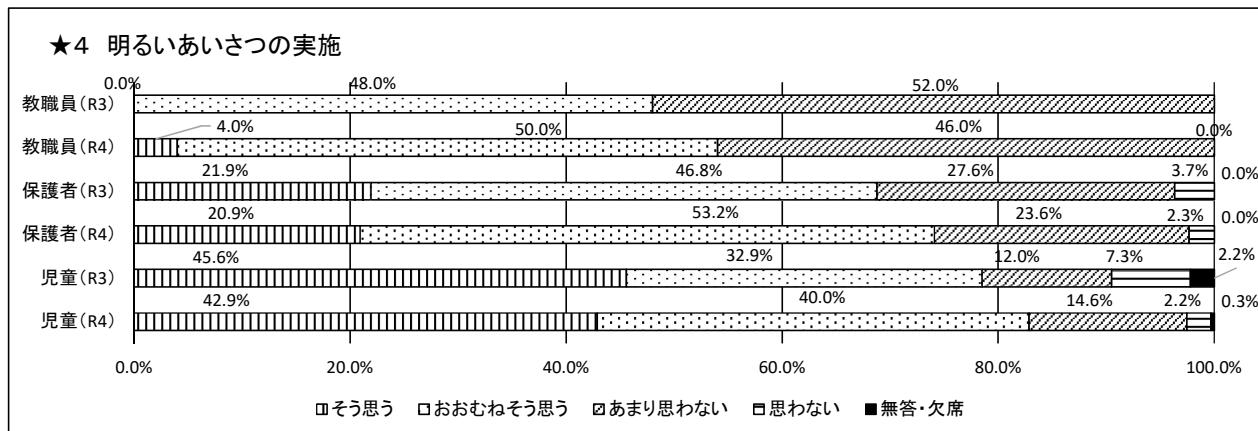
◎授業における「めあての提示の工夫」と「振り返りの実施」が定着し、児童の主体的な態度についての成果を感じている。今後もめあてをもって主体的に学習したり行動したりできるように、工夫して指導していきたい。

<3について>

◇タブレットやICT機器の活用について、教職員では、70%が積極的な活用を図っていると回答している。タブレットにより楽しく学習していると見ている保護者は59%だったが、90%を超える児童が楽しくわかりやすいと回答している。

◎一人一台タブレットの導入により、児童にとって楽しくわかりやすい学習活動の可能性が広がった。今後も、教職員による教材研究をすすめ、さらに楽しくわかりやすく効果的な学習活動を工夫していきたい。

## 2 「明るい子」～豊かな心を育む教育の充実



### 【◇結果 ◇考察】

<★4について（★都賀ブロック小中一貫教育の重点目標）>

◇明るいあいさつの実施について、教職員、保護者、児童とも、昨年より肯定的な回答が増えている。児童の80%以上が肯定的な回答をしているが、教職員の約46%、保護者の約25%は否定的な回答をしており、保護者のあいさつ指導への要望も多い。

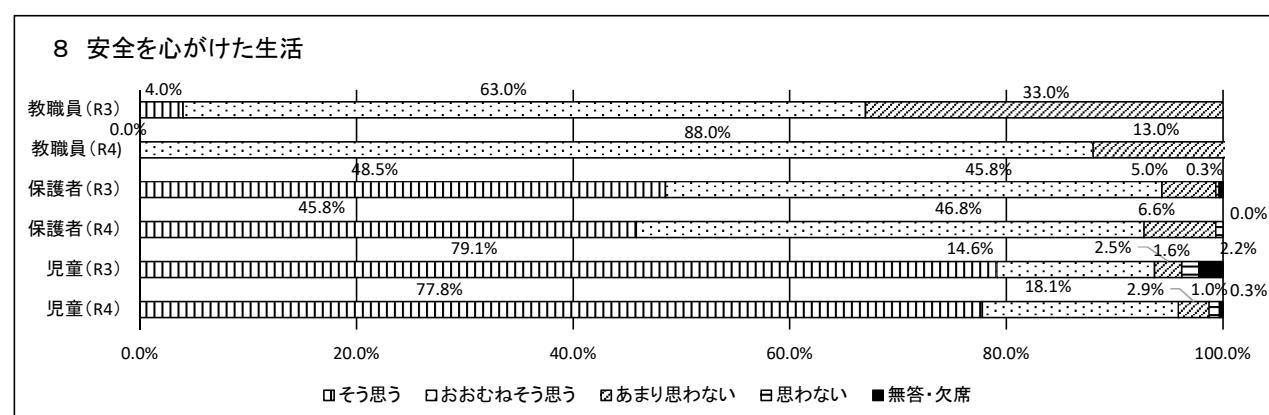
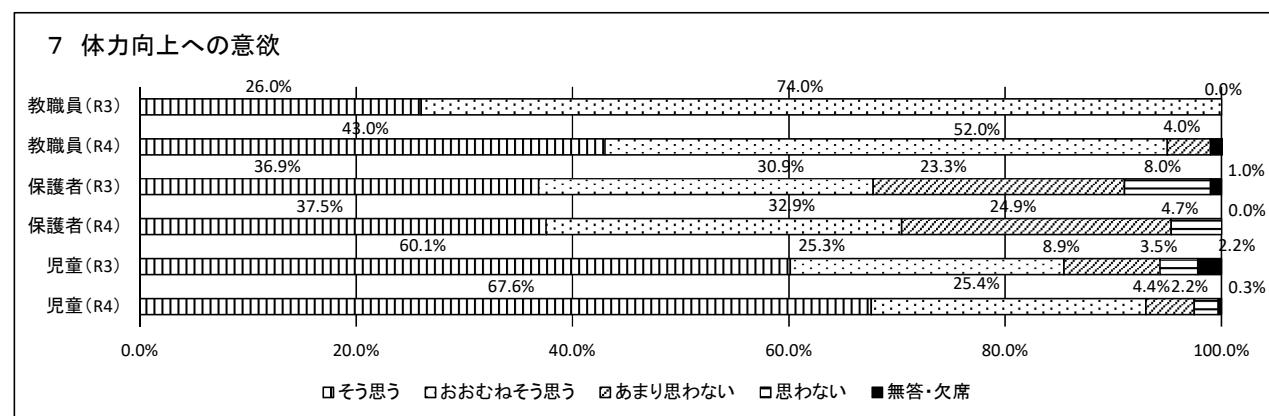
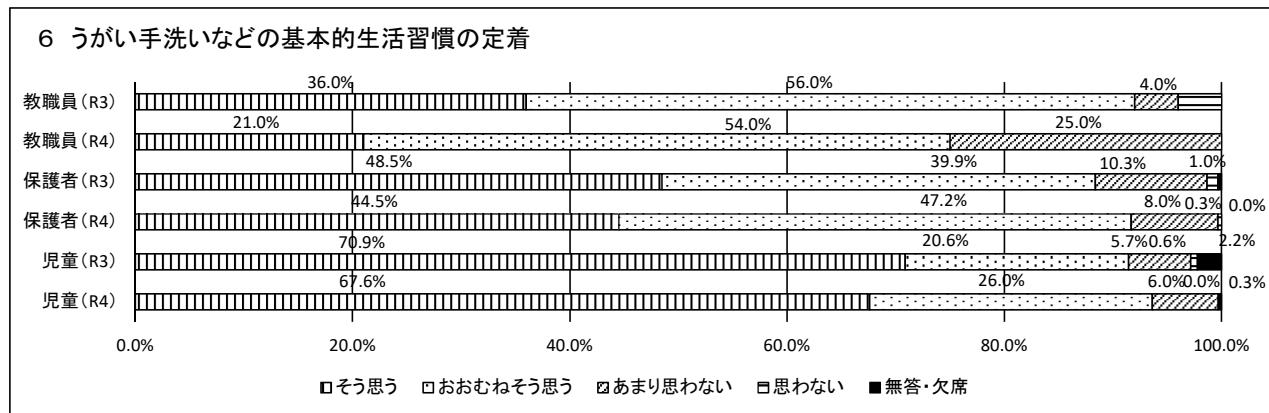
◎これまで、都賀ブロック小中一貫教育の重点目標として力を入れてきたが、あいさつをすることができる児童が少しずつ増えている様子が見られる。しかし、児童と教職員や保護者との間で「あいさつをしている・できている」という点に関して意識に差があり、まだ充分とはいえない状況である。今後さらに、誰もがあいさつをすることができるよう指導を行っていただきたい。

<5について>

◇教職員、保護者、児童ともに昨年より肯定的な回答が増え、保護者と児童の90%以上、教職員の約80%が肯定的な回答だった。約10%の児童は否定的な回答をしている。

◎「ふわふわ言葉」が児童の中にも浸透しており、相手を思いやる言動について考えながら行動するようになってきている。教職員は、できている姿をほめ、さらによい方向に向かうように指導しているが、今後も指導を継続し、心を育てる教育を行っていただきたい。

### 3 たくましい子～心身の健やかな成長を促す教育の充実



#### 【◇結果 ◎考察】

##### <6について>

◇基本的な生活習慣の定着について、保護者、児童とも約90%が肯定的な回答だった。教職員は肯定的な回答が75%であったが、昨年より減った。

◎「うがい」「手洗い」「マスク着用」については、家庭でも意識して行っている様子が伺える。しかし、昨年に比べ少し緩みが出ているのか、不十分を感じている教職員もいるようである。今後も家庭と連携して、望ましい生活習慣を身に付けられるようにしていきたい。

##### <7について>

◇体力向上への意識について、保護者と児童は、昨年に比べ、肯定的な回答が増え、特に児童は90%が肯定的な回答をしている。一方で、教職員は肯定的な回答が100%だった昨年と比べると、少し減って95%となった。しかし、「そう思う」の割合が増えている。

◎教職員は、内容や方法を工夫しながら児童の体力向上への意欲付けを図っている。様々な制限が緩和され、少しずつ体を動かす機会が増えている中で、意欲的に運動したり、体力づくりをしたりできるような働きかけを今後も行っていきたい。

##### <8について>

◇安全を心がけた生活について、保護者、児童ともに肯定的な回答が90%を越えている。教職員では、肯定的な回答が昨年より増え、88%だった。

◎教職員は、児童の安全意識、防犯意識の向上を図り、日常的な交通安全指導、身の回りの安全指導等を折に触れ行っている。一方で、下校時の歩き方や自転車の乗り方等については改善を求める意見も寄せられているが、児童にはその意識が薄く、それが生じていることがわかった。このような課題も見られることから、今後、児童が実感を伴って取り組めるような安全指導を実施していきたい。